

滋賀大学経済学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1-1 滋賀大学経済学部後援会 発行責任者／戸田 茂

目次	
後援会長・学部長等挨拶	1
卒業式・答辞	2
入学式	3
入学状況・大学紹介	4
学生活動だより	8
国際交流・交換留学	8
就職活動と支援	10
就職状況	12
進学先・就職先一覧	13
平成24年度決算・後援会総会	15
平成25年度予算・役員名簿	16

会長挨拶

後援会会長 戸田 茂



戸田後援会会長

本学部で学ばれているお子様が自宅通学であれ、下宿生活であれ、会話を重ねて家族の絆を深めるために、歴史ある彦根の地を舞台にして頂ければと思います。

『肉筆の手紙』を是非お子様の机の上に添えて下さい。茲許、携帯電話やメールの浸透により通信することは容易になりました。しかし、その手紙を読むお子様は、折に触れて親の顔を思い浮かべて読み返されるでしょう。立派な響く『会話』になる筈です。子供の将来を無償で祈る親の願いがお子様の道標となるでしょう。

学部長挨拶

経済学部長 梅澤直樹

いわゆるアベノミクスによって景気は好転の兆しを見せていますが、グローバル化が進み、激しく変動する世界経済のなかで、その副作用が噴き出す不安も拭えません。そうした時代だからこそ、お預かりした大切なお子様たちを、しっかりと専門的基礎学力を身につけると同時に、世界で、また地域社会で敬愛される見識を備えた人物に育てたいと努力を重ねております。近年では、主体的な学習力を培うべく、問題発見・解決型の実践的科目にも力を注

いできました。後援会にはそうした私たちの教育をさまざまに支えて頂き、あらためて厚く感謝するとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

副学部長挨拶

総務・企画担当 荒井 壽夫

総務・企画担当として、学部の特に教育体制の改革と充実の仕事を担当いたします。

学部長からは、学部の第2期中期計画に関する暫定評価に取り組み作成するように指示されています。これ自体、大きな仕事ですが、この仕事をきちんと遂行するためにも、本学部がこの間、力を込めて取り組んできた「就業力育成支援事業」や「教育学習支援室」の学生教育支援事業等を発展させる仕事にも日々担当の教職員の協力を得ながら積極的に取り組んでいきたいと考えています。よろしくお願ひ申し上げます。

学務・学生生活担当 齋藤 邦彦

今年度、経済学部の学務委員長として、学部学生の学業及び教務と学生生活に関する指導、運営等の諸事項を担当します。鈴木前委員長が取り組んできた留年対策を継続し、学生の単位履修状況を個別に把握し、学修の相談や指導を行うことを考えています。初年次教育の充実、プロジェクト科目など学ぶ力の育成、インターシシップ事業も継続して取り組みます。後援会の皆様方のご支援とご理解、よろしくお願ひ申し上げます。

入試・広報担当 田中英明

入試は、新しい仲間を迎えるという、受験生だけでなく学部にとってもその明日を決する業務です。本学部の新入生の評価は近年上昇傾向にあります。これからも優れた後輩達を迎えるためには、新たな挑戦も必要となってきます。

また、教育・研究活動を進める上で、この学部の魅力を広く伝えていくことの必要性がますます高まっています。

皆様のご理解と温かいご支援をお願い申し上げます。

副研究科長挨拶 弘中 史子

経済学部の大学院は経済学研究科とよばれ、前期課程と後期課程にわかれています。前者では、経済学、経営学、グローバル・ファイナンスのいずれかの分野で、修士の学位を取得できます。後者では、経済学、経営学のいずれかの分野で博士の学位を取得できるようになっています。

ご子息の学部卒業後の進路の選択肢として、ぜひ大学院を考えてみてください。



後列 田中 荒井 齋藤各副学部長
前列 弘中副研究科長 梅澤学部長

平成24年度卒業式

3月25日(月)午前10時から、彦根市の「ひこね文化プラザ」において、平成24年度滋賀大学卒業証書・学位記、大学院研究科学位記、特別支援教育専攻科修了証書授与式が挙行され、教育学部242名、経済学部591名、大学院教育学研究科62名、大学院経済学研究科41名(うち博士後期課程修了1名)、特別支援教育専攻科16名の計952名が、学び舎を後に実社会等に巣立ちました。

佐和学長からの学部、大学院、専



卒業証書の授与



学長賞表彰を受ける中西さん

攻科の代表者への卒業証書等の授与に続き、学長告辞で「日本経済再生のために、熟練や努力、創意、決断、勤勉といった「近代資本主義の精神」の持ち主になって欲しい」とのはなむけの言葉が贈られました。続いて、在校生を代表して教育学部3回生の田邊利典さんからお祝いと感謝の言葉、また、卒業生を代表して経済学部卒業生の田村典子さんから「困難な状況の中でも、努力することを怠らず、人々が希望を抱ける社会づくりに貢献できるような、日々邁進していく所存です」との決意と教職員、在校生への感謝の言葉が述べられました。

引き続き、学業成績優秀者学長賞表彰が行われ、教育学部と経済学部

桜の蕾も開き始め、暖かな春の日差しを感じる季節となりました。本日、平成24年度滋賀大学卒業証書授与式に、諸先生方、ご来賓各位並びに、ご家族の皆様にご臨席賜りましたことは、私たち卒業生にとりまして、この上ない喜びであります。卒業生を代表し、深く御礼申し上げます。

只今、佐和学長から温かい励ましのお言葉を賜り、また、在校生からの心のこもった送辞をいただき、卒業生一同心より感謝申し上げます。

思い起こせば、四年前の春、新たに始まる大学生活に大きな期待と不安を抱きながら、歴史と伝統のある本学に入学いたしました。それから早いもので四年もの歳月が経ち、今日という日を無事に迎えることができました。私の滋賀大学での四年間は、本当に実りの多いものでした。諸先生方の温かいご指導のもと、幅広い知識をご教授頂き、また、国際交流や生協学生委員会の活動など、様々な経験を通して、コミュニケーション

答辞

において、在学期間中に最も優れた学業成績を挙げた教育学部卒業生の西久保岳司さんと経済学部卒業生の中西亮太さんの2名に、佐和学長から表彰状と記念品が贈られ、その努力と成果を称えました。

シヨン能力や協調性など社会で生きていくために必要な資質を培って参りました。また、この四年間、共に過ごしたかけがえのない友人との絆を大切にし、互いに支え合っている関係が続くことを強く願っています。大学生活で得た様々な知識や経験、たくさんの出会いは今後の社会生活の中で大きな糧となることでしょう。

そして本日、深い感謝の気持ちと新たな決意を胸に、社会人としての第一歩を踏み出します。

私たちを取り巻く社会に目を向けますと、超少子高齢化や経済格差の拡大、自然災害の恐怖など、日々の生活に不安を抱かずにはいられません。



答辞を述べる田村さん

ん。また、世界中の国々、人々、企業がより一層緊密に結びつけられる時代の中、国家間の軋轢や環境、資源、貧困問題など複雑な問題が絡み合っています。さらに、アルジェリアでの人質拘束事件など、世界で活躍する日本人や企業が遭遇する危険も増加・多様化するなど、前途多難な問題が私たちの前に立ちはだかっています。

しかし、このように悲観すべき出来事ばかりではありません。昨年行われたロンドン五輪・パラリンピックでの日本人選手の活躍や、山中教授のノーベル賞受賞など、私達に感動や希望を与えてくれる出来事もたくさんありました。私達も困難な状況の中でも、努力することを怠らず、滋賀大学の卒業生である事に誇りを持ち、人々が希望を抱ける社会づくりに貢献できるように、日々邁進していく所存であります。

最後になりましたが、滋賀大学のますますのご発展と、諸先生方、職員の皆様、ご来賓やご家族の方々のご健康、ご活躍ならびに、在校生の皆様をますますのご健闘をお祈りいたします。答辞とさせていただきます。

平成25年3月25日

卒業生代表

経済学部 田村典子

平成25年度入学式

4月4日(木) 大津市の「びわ湖ホール」において、平成25年度滋賀大学入学式が挙行され、教育学部254名、経済学部594名、大学院教育学研究科59名、大学院経済学研究科42名(うち博士後期課程2名)、特別支援教育専攻科11名の総計960名が、新しい学生生活のスタートを切りました。

式典では、学歌斉唱の後、入学生を代表し経済学部の木戸晋太郎さんが宣誓を行い、「学則を守り、学生の本分を尽くすこと」を誓いました。



告辞を述べる佐和学長



誓詞

この度滋賀大学に入学を許可されました。つきましては本日ここに学則を守り学生の本分を尽くすことを誓います。

平成二十五年四月四日
滋賀大学入学生代表
経済学部 木戸晋太郎

引き続き佐和学長から入学生の皆さんに「教養と専門的学識を備えた、世界で競える人材に育っていただくことを願う」と告辞がありました。



祝辞を述べる戸田陵水会理事長

続いて、来賓を代表して経済学部同窓会(陵水会)戸田一雄理事長から祝辞があり、その後在校生を代表し教育学部4回生の柴原茜さんから歓迎の言葉が述べられ、入学を祝しました。

式典終了後新入生オリエンテーション「キャンパスライフ・イン・滋賀大学」が開催され、在校生が取り組んでいる「学生自主企画プロジェクト」の紹介やオーケストラ部による演奏があり、入学生はこれから始まる大学生活に期待に胸を膨らませていました。



経済学部学生によるプロジェクトの紹介

平成25年度 入学状況

入学試験状況（経済学部・大学院経済学研究科）

		定員	志願者	受験者	合格者	入学者
経済学部	昼間主	500	3,058	1,771	672	524
	夜間主	50	155	138	77	50
	3年次編入	20	69	68	36	20
	計	570	3,282	1,977	785	594

大学院	前期課程	52	71	67	46	40
	後期課程	6	6	6	2	2
	計	58	77	73	48	42

滋賀大学入学者一覧

経済学部	594	
大学院 経済学研究科	前期課程	40
	後期課程	2
教育学部	254	
大学院教育学研究科	59	
特別支援教育専攻科	11	
入学者合計	960	

都道府県別入学者数（経済学部）

北海道	5	0.9%	岐阜県	40	7.0%	和歌山県	9	1.6%	福岡県	3	0.5%
茨城県	1	0.2%	静岡県	9	1.6%	鳥取県	4	0.7%	佐賀県	1	0.2%
栃木県	2	0.3%	愛知県	94	16.4%	島根県	4	0.7%	長崎県	1	0.2%
群馬県	1	0.2%	三重県	24	4.2%	岡山県	10	1.7%	大分県	1	0.2%
千葉県	1	0.2%	滋賀県	99	17.2%	広島県	6	1.0%	宮崎県	5	0.9%
東京都	6	1.0%	京都府	99	17.2%	山口県	2	0.3%	鹿児島県	1	0.2%
富山県	4	0.7%	大阪府	45	7.8%	徳島県	1	0.2%	留学生	9	1.6%
石川県	3	0.5%	兵庫県	40	7.0%	香川県	6	1.0%	その他	2	0.3%
福井県	10	1.7%	奈良県	20	3.5%	愛媛県	6	1.0%	合計	574	

大学紹介

事業の取り組み紹介

産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

この事業は、昨年度（2012年度）に、新たに文部科学省の補助事業「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」（以下、産業界ニーズ事業と略称）の公募があり、滋賀・京都・奈良の16大学で共同して応募し、採択されスタートしました（取組名「滋京奈地区を中心とした地域社会の発展を担う人材育成」）。本事業は就業力育成支援室が中心となって昨年秋季より活動を開始しています。

この新たな取組は、地域にある大学・短期大学がグループを形成して、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を設置して、産業界のニーズに対応し、社会的・職業的にも自立した人材の育成に向けた教育の充実を図るものです。

「産業界ニーズ」といっても、企業のみならず、公務員やNPOなどの職員としてのニーズも含め、いわば社会的ニーズに対応した教育改善事業であるとの位置づけのもと、卒業生アンケートの実施や、産業界の人々と連携協議会を立ち上げて、そのニーズの把握に務めています。

それでは、就業力育成支援室は、大学生の現状や社会のニーズについて、どのような教育プログラムを提供しているかと考えているのでしょうか。

就業力育成支援室の提供するプロジェクト科目は大きく分けて二つに分かれます。一つは、「インタラフェイス」が活き活き働くことができるようになるための授業です。社会人基礎力の向上をねらい、例えば、「即興表現を学ぶ」「創造力・コミュニケーション力を向上する」「映像表現入門」「自己表現力を高める」「企画実現力を身に付ける」などの科目です。これらの科目では、体育や美術や音楽のように、身体を存分に使った授業をします。即興劇を演じたたり、昔話の語りやチャレンジしてみたり、あるいは複数でコンタクト・インプロビゼーションを行ったりします。こうした活動を通じて、聞くこと、見ること、話すこと、触れることなどを学んでいきます。

二つ目のカテゴリーは、実際の課題を解決していく文字通りの課題解決型のプロジェクトです。多様な価値観を学ぶことをねらいに、例えば、働き方探求プロジェクト



アヒルの親子にチャレンジ「即興表現を学ぶ」

「コミュニティFMで番組を作る授業」「NPO法人の子育て支援で学ぶ」「ガフエ経営に学ぶ」等の科目です。これらの授業では、五感はもちろん、専門知識等も総動員して、更にはそれを他人に伝えるという、全人的（ホリスティック）なアプローチがとられます。

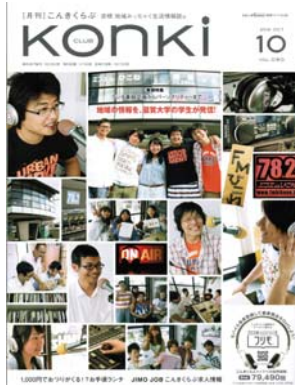
これらの教育プログラムは最近多くの大学で取り入れられるようになり、特に東京大学の「i-school」や大阪大学のコミュニケーションデザイン・センターなどにおける取組は、先進的なものとして注目を浴びています。

平成25年度では、昨年度のブラッシュアップに加え、学生の学びの機会が増えるよう、新たなプログラムにも取り組めます。

春学期に実施の主なプログラムは次の通りです。



学童保育で地域の妖怪ツアーを企画



「コミュニティFMで番組を作る授業」が情報誌の表紙を飾る

**インターフェイスを働かせて
社会人基礎力を向上**

●企画実現力を身に付ける
「企画実現力」を高めるための様々なアプローチを学びつつ、大学生生活を充実させる自分なりの企画を皆で一緒に練り上げます。

●インプロコミュニケーション・創造
カ・コミュニケーション力を磨く
演劇のインプロ（即興表現）の手法を活用して、創造力・感性・自発性を養います。インプロゲーム、即興劇の体験、即興再生劇（プレイバックシアター）の鑑賞や表現力ワークショップ等の研修会へ参加も予定しています。

●映像制作プロジェクト・映像表現入門
映像の企画・撮影・編集の基礎を学び、グループごとに課題に沿って、十分程度の映像を制作します。



課題発見型プロジェクト

●ピープル・デザイン・プロジェクト
ピープルデザイン研究所の代表・須藤シンジ氏を講師に招いて、第三者に対する配慮・共存・共生への気づきがあり、かつハンディを解決する機能やサービスを創り出すことを目的としたプロジェクトです。

●地域コミュニティ活性化・コミュニケーションセンターを舞台に
地域づくりの成功モデルの一つとされるコミュニケーションセンター・中区公民館を舞台に、住民やNPO等で組織されるまちづくり組織の運営や行政施策を学んだうえで、学生による新たな地域交流イベントの企画と実施を行います。



働き方探究プロジェクト

●吉本新喜劇から学ぶ
地域活性化プロジェクト
彦根市で開催の「吉本新喜劇が彦根にやってくる!!」を舞台に、企業による地域活性化戦略やイベントプロデュースの方法を学んだうえで、地元の実行委員と共に協働し、イベントを仕上げます。



カフェ経営に学ぶ

●本気系インターンシッププロジェクト
企業やNPO等で本気で取り組むインターンシップを通して、夏休みの一ヶ月半、徹底的に鍛えます。

●被災地応援プロジェクト
東北の親子を招いて開催される保養キャンプでの手伝いを通じた実習を行います。



昨年の被災地応援プロジェクト
—自分のやりたいこと・感じたことを文字に—

産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業として、就業力育成支援室は、こうしたプロジェクト科目のほか、キャリア形成ゼミやキャリアデザイン論、各種セミナーや企業訪問など様々な学習機会の提供を通じて、活力にあふれた学生の育成を支援していきます。

滋賀大学経済経営研究所

所長 筒井 正夫

当研究所は、1923(大正12)年旧制彦根高等商業学校発足時に設置された調査課を母体とする由緒ある機関で、今日に至るまで一貫して経済経営関連の貴重な文献資料の収集・管理と様々な研究教育の支援を精力的に行ってまいりました。

特にこれまで収集してきた資料の中でも戦前期の台湾・朝鮮・満州地域の社会経済状態を詳細に調査報告した「旧植民地関係資料」(約8000点)は、現在では入手困難で当研究所しかない貴重な資料も多数含まれています。また「滋賀県関係資料」には繊維業などの県内地場産業や各商工会議所資料など地域経済研究にとって得難い資料が収蔵されています。さらに1200点に及ぶ「企業の営業報告書」には約100社以上の近江商人系企業が含まれており、並行して



戦前期営業報告書

多様に収集してきた「会社史・団体史」ともに、経済・経営研究、特に滋賀県経済や近江商人系企業の研



定例研究会

究にとつては全国でも出色の資料保有数を誇っています。さらに当研究所には、彦根高商発足以来の学校関係の貴重文書が保管されており、彦根高商の専門高等教育機関としての役割を解明する上で内外の注目を集めています。

これらの資料は分類して文献目録が作成され、さらにマイクロフィルム化やデジタル化が施されて良好な保全とウェブ上での幅広い公開が図られ、内外の研究者の広範な利用に供されてきました。こうした貴重資料群を有する当研究所は現在、「歴史的資料等保有施設として政令で定める施設及び総務大臣が指定した施設」となつて学内外の研究者からも注目され、近現代の経済・経営の研究拠点としての役割を果たして参りました。

研究所では、また学内教員による「定例研究会」や外部から研究者を招いての講演会・フォーラム・ワークショップなどを企画して随時開催し、その成果はホームページ上に公開しております。また「学生懸賞論文」を主催して学生や大学院生の自主的研究をサポートしています。

当研究所はまた「滋賀大学経済学会」の事務局として、学部紀要である『彦根論叢』を年4回、『経済学部研究年報』を年1回編集・発行しています。特に『彦根論叢』は近年斬新で読みやすいデザインと高度な専門性を備えた誌面構成に一新致しました。また本学部教員が研究成果を専門書として結実させる『研究叢書』や随時発表できるワーキングペーパーの発行も行っています。これまでに『研究叢書』は47冊、ワー



彦根論叢

キングペーパーは187号を発行し、本学部教員の研究成果の公表を大いに進めてまいりました。これらの成果は、ホームページ上に公開され、広く研究者の利用に供されています。このほか本学部教員の出版助成を支援したり、大学院生の雑誌発行への援助にも協力しています。

これらの活動は、本学部教員からなる評議員と資料調査委員、そして研究所スタッフが協力して担い、経済学部における研究・教育を多様に推進するための支援を行ってまいりました。

平成25年度には、近現代の滋賀県資料や近江商人系企業資料を集中保管し、その研究教育と社会貢献の拠点として「土魂商才館」が彦根キャンパスの中央に建設されることになりました。「土魂商才館」には広く解放的な閲覧室と貴重資料を収納できる書庫、内外の研究者や学生を集めて機能的に研究・学習できるセミナー室、大学の歴史等の展示コーナーが備えられることとなりました。この新施設に経済経営研究所はその中心的な管理運営の組織として入所・移転することとなりました。経済経営研究所は、これまでの活動実績を踏まえ、広く充実した新施設を存分に活かして、これまで以上に資料収集と研究・教育の推進に積極的に邁進してまいり所存です。皆様への御支援と御協力をお願いいたします。

経済学部附属リスク研究センター

センター長 久保英也

リスク研究センターは、現代のビジネス社会におけるリスク分析やリスク管理の需要に応える研究を行う新しい機関として、同窓会である『陵水会』と経済学部創立80周年記念学術基金を基に、平成16年2月に滋賀大学経済学部を設置されました。滋賀大学教員の幅広い研究フィールドを生かし複雑化する経済活動、社会構造、そして国際関係に伴い拡大するリスクに焦点を当てた研究を行い、経済学部の重点研究領域としている「リスク」と「環境」



日韓共同環境シンポジウム (H24年3月)

において、そのリスク研究の中核組織として活動しています。目標は、①学内研究者の幅広いリスク研究の集積、②東アジア3カ国(中国、ベトナム、韓国)との高水準の共同研

究の推進、③これら研究成果の大学院教育、社会への還元、の3つです。

研究分野としては、金融リスク、環境リスク、陵水会の人材バンクと連携した経営リスクを重点領域とし、また、経済・社会リスクについての横断的な幅広い研究も対象としています。

現在、リスクに関する研究プロジェクトを国際的に運営しています。特に高い成長が見込まれる東アジアを中心に、中国東北财经大学(大連市)、韓国啓明大学(デグ市)、ベトナムハノイ国民経済大学(ハノイ市)の3大学と国の枠を超えて多様な共同研究を進めています。また、欧州プロジェクトとしてイギリスのシェフィールド大学とも共同研究を進めています。さらに、メキシコのグアナフアト大学も新たに加え、アジア、欧州、北米の3地域の国際的研究網が完成しました。

一方、滋賀大学での研究にとどまらず、リスク研究に関係する他学会とも連携し、学会の国際化にも貢献していきたいと考えています。

共同研究を持続的に行うために、リスク研究センターが力を入れているのは、研究の基盤になる組織対組織のサポート体制づくりや外部機関との協業の中で共同研究を進めるという方式です。その中で、平成23年からコーディネートしてきた関西広域連合と韓国東南部広域連合(大慶



びわ湖環境ビジネスメッセ (H24年10月) 嘉田滋賀県知事と李韓国慶尚北道副知事対談

た。その他、海外の共同研究者や他大学の講師・研究者を招聘し、ワークショップやセミナー、講演会を開催したり、研究叢書やディスカッションペーパーを発行して研究成果を積極的に公表するなど、リスク研究の普及にも努めています。さらに、これを実現するツールの一つとして、「リスクフラッシュ」という週刊情報誌を平成22年12月3日から発行し、平成25年7月までに、すでに120号をお届けすることができました。

(配信をご希望の方は risk@biwako.shiga-u.ac.jp) までお申込みください。)



リスクフラッシュ

また、平成25年4月には、逆に韓国のデグ市において開催されました「第10回インターナショナルグリーンエネルギーエキスポ&カンファレンス」にブースを出展すると共に「韓日国際環境シンポジウム」で論文報告を行い、滋賀大学のアジア志向の姿勢をアピールしまし

今後ともリスク研究センターは、陵水会との連携を密にし、リスクに関連する研究を深めると共に、リスクに関係する教育の浸透を通してリスクの理解とリスク管理の普及を推進してまいります。

学生活動だより

びわ湖毎日マラソンに経済学部学生が健闘！

平成25年3月3日(日)に開催された「第68回



力走する小西君

びわ湖毎日マラソン大会」に、本学経済学部4回生小西雄大君が出場し、2時間30分09秒というすばらしい成績で見事に完走しました。

この大会には、本学から小西君の他に教育学部の学生も1名参加しており、2名とも完走しています。

小西君は、経済学部陸上競技部に所属し、両学部陸上競技部で編成したメンバーで

「びわ湖大学駅伝」に2年連続出場し、不動のエースと呼ばれています。

今回の活躍はもとより、今後の益々の活躍が期待されます。



見事に完走！

経済学部学生が滋賀県文学祭において「特選」！

経済学部4回生 成宮恵津子さんが書いた小説「湖畔の兄弟」が、滋賀県芸術文化祭第62回滋賀県文学祭において



「特選」に選ばれました。

成宮さんは、社会人学生であり経済学部夜間主コースに所属し、これまでにも、ミシガン州立大学連合日本センターの学生をホームステイで受け入れた経験をもとにした『ブレッグ・ハービン』という著書を刊行されています。

今後の益々の活躍を期待しています。

学生自主企画プロジェクト優秀団体に経済学部から2団体！

学生自主企画プロジェクトは、学生の独創的、意欲的な活動を通して企画力、行動力、実践力等を培うことを目的とし、学生の大学運営への参画、学生自身の大学アイデアコンテストづくりを目指し

て、毎年募集し活動経費を援助しています。

平成24年度は全学で15件の採択があり、すべての団体の活動報告の結果、優秀団体として3団体が選ばれ、そのうち2団体が経済学部学生の企画でした。

●滋賀大学のラジオ番組作りプロジェクト FM滋賀大

経済学部就業力支援事業の一環で始められた授業から生まれた学生団体で、FM彦根放送局から実際にラジオの生放送で大学のいろいろな情報発信を行いました。

●ENJOY BASEBALL

経済学部硬式野球部の学生が、地元少年野球チームに事情があり所属できない子供達を集め、技術向上はもちろん野球本来の楽しさを伝えるというボランティア活動を行い、子供達はもちろん学生自身も大きく成長しました。



滋賀大ラジオプロジェクト

「こちら滋賀大放送局」

滋賀大生による 滋賀大生の「今」を発信！！

平成24年度 学生自主企画プロジェクト

国際交流

留学体験記

留学生活(東北財経大学にて)

経済学部2回生 高橋直子

私は、2012年2回生の秋学期を中国大連市の東北財経大学で過ごしました。

中国語に初めて触れたのは大学生になってからでした。中国語を選択したのも、漢字が使われているから日本人にはなじみやすいのでは、という単純な理由からです。授業に関してさほど難しさを感じたことはありませんでしたが、1回生の春学期のテストで思ったより点数が低かったため、中国語の勉強に力を入れることにしました。勉強すれば分かることがだんだん増えていき、楽しくなり、話せるようになっていき、感じるようになっていきました。2回生の春学期で鍋倉先生の授業を受講させて頂き、先生が「実際に中国に行ってみることは何よりの勉強法」とおっしゃっていたことが印象的で、そこで中国へ行くことを決意しました。滋賀大学での中国語の授業に関する予習・復習・テスト前勉強と怠らなものでした。これだけ勉強したのだから、中国へ行って大丈夫だろうという気持ちも多少ありましたが、

中国へ行ってみて私はずっと苦しんだことは会話で、文字を読んで意味が分かって、話すというものは非常に難しく、全く異なる能力だと実感しました。

初級クラスに所属していた私は、口語・精読・聴力の3つの授業を受け、一番苦しんだのは口語です。最初は授業が全く分からず、理解できていないという悔しさや恥ずかしさから、口語の授業では積極的になれずにいたように思います。しかし、ロシアやタイの生徒が中国語で会話するのを目の当たりにし、自分を変えようという、良い刺激になりました。この状況は日本人ならたいてい誰もが一度は陥るのではないかと思えます。しかし、ここで落ち込む必要はありません。日本人には他国の生徒が羨む武器があるからです。それは、すぐに読んで意味を理解できることです。精読に関しては、クラスで扱う教科書は文章が長く比較的難しいと先生はおっしゃっていましたが、日本人には負担が非常に軽いようでした。

東北経大での日中交流会に参加させて頂きましたが、中国の学生は勉強に関して貪欲で向上心が高く、中国人の友達



の中には、日本の簿記の試験を受けたいと日本語で相談してくる子や、滋賀大の大学院に行きたいから滋賀について紹介してほしいと言う人もいました。

本当にたくさんの貴重な経験を得ることができました。語学は、目に見えて実力が上がっていくものではないので不安になったりもします。でも、最後には友達と意思疎通したり、買い物で値下げ交渉したりと簡単なことなら聴いて話せるようになりました。ペンインも頭に入りやすくなったと実感しています。学ぶ上で大切なのは、伝えようとする気持ちとうまくいかなくても諦めない粘りと語彙力です。これから留学を考えている皆さんは、とにかく単語を詰めてから行ってほしいと思います。そして1人でも多くの人に想像を超える「中国」を伝えたいです。

メキシコ グアナファト大学留学 経済学部2回生 森本修輔

定期試験最終日の翌日、息つく間もなくメキシコへ向けて出発した。この留学を決心したのは1回生秋頃。授業に出るも出ないも自由、バイトをするも部活・サークルに入るも自由な大学生活4年間を無駄にしたいくないという思いからだ。

グアナファト大学付属の語学学校で半年スペイン語を学んだ。レベルが6つに分けられ、私は下から2つ目に入った。授業は文法・会話・文学・歴史・ダンス等で、クラスは少数で集中して学ぶことができた。挨拶



擦ぐらしいか話せなかった私にとってのは苦痛で、学期が始まってしばらくは先生の発音が全く聞き取れず、何も理解できない状態であったが、徐々に単語、文法がわかるようになった。受身で受けていた授業も、最後には自分の気持ちを伝えられるようになった。

会話の授業最後のテストが思い出に残っている。このテストは与えられたテーマについて話すという形式で、ある韓国人の女の子のテーマは「友達」だった。その子は「韓国にいたころは日本人が嫌いだったけど、今あなた達と会って日本人が好きになった。」と言ってくれた。国も言語も違う人たちがどんなことを思っているのか知ることは難しいが、その本音をこのスペイン語を通して知ったということがとても新鮮でならなかった。スペイン語だけでなく、メキシコの文化や習慣、さらには他の留学生の気持ちを知ったことが自分にとって大きかった。

ホームステイ先の家族はとても優しく、スペイン語を話せなかった私にジェスチャーを交えながら私が分るまで話しかけてくれた。ルームメイトのアメリカからの留学生にも助けられ快適な生活を送ることができた。私はこのルームメイトのように流暢に話すことができず、自分で

話そうと思うと次の話題に移ったり、質問されてもうまく答えられなかった。しかし、8月末にルームメイトに日本人の女の子がきたとき、少しずつスペイン語が上達していることを知った。彼女はメキシコに来た直後の私のように、スペイン語を話せなかったもので、私は家族との間に入って通訳をした。このときに家族から「1ヶ月前に比べるとスペイン語うまくなったね。」と褒められて嬉しく、もっとコミュニケーションをとりたいと思った。自分が家族に必要とされているとわかると、本当の家族のように思えた。日本への帰国の日には「私たちは家族だから。この家はあなたの家だからいつでも帰ってきていいよ。」と言われ、メキシコ人の温かさに感動した。

この留学を通してスペイン語だけではなく、様々な人やもの、文化や価値観に触れ、慣れない環境の下で、半年過ごしたことは自分の自信につながった。海外で暮らすことで視野が広がったと思うし、何より素晴らしい人たちに会えたことは一生の宝物だ。この留学を支えてくださった方々に感謝。

平成24年度の主な留学先		
国名	大学名	留学者数
アメリカ合衆国	ミシガン州立大学連合	10(7)
オーストラリア	ディーキン大学	25(23)
メキシコ	グアナファト大学	10(8)
中国	東北財経大学	3(0)
韓国	啓明大学	8(6)
タイ	チェンマイ大学	33(31)
	チェンマイ・アジアパシフィック大学	1(0)

※ () は短期研修者数で内数

就職活動と支援

「変化」に対応する「覚悟」と
対応できる「才覚」を

経済学部特任准教授 小野晶生

後援会のみなさまにおかれましては、平素より経済学部の就職支援活動に多大のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成24年度（平成25年3月）卒業生の進路先状況及び就職先状況につきましては後述の資料をご覧いただけましたらお分かりのように順調に推移いたしました。お蔭様で就職率も93.3%と昨年（90.9%）比2.4ポイント改善いたしました。景気の回復に伴う雇用改善をうまく捉えられた結果かと思われ



就職支援室

ます。

しかし、学生の進路支援・就職支援に携わっていますと、いろいろな課題が浮かび上がって参ります。その一端を述べさせていただきます。

「安定」と「変化」

学生たちには良き社会人として、良き人生を送って欲しいと願っています。孟子もおっしゃっているように「恒産なくして恒心なし」ですから経済的に安定していなければ精神的にも安定することは無いといえるでしょう。

相談に来た学生たちにしつこく聞くことは志望動機です。志望理由です。企業を志望しようと役所を志望しようと志望理由について執拗に尋ねます。志望動機に至るまでの、何をしたいのか、どう働きたいのか、曖昧であるケースが多くみられます。相談に持ってきた履歴書やエントリーシート上の志望理由の欄のみ空白というケースも散見されます。

そして、執拗な問いかけに切羽詰って出てくる返事が「安定してますから」という理由です。先般某電力会社志望ということで相談に来た学生のケースが典型的でした。「あの電力会社は安定していますから」と言うわけです。昨日までのビジネスモデルでは確かに安定していたでしょう。でも今日は大赤字を計上せざるを得ず、社員の給与も大幅カットになっています。この学生が運よくこの企業に入社できた明日から



就職支援室内

は、変化に対応した新しいビジネスモデルを構築していかなければこの企業の明日は無いわけです。何をもちて安定というのか首を捻らざるを得ませんでした。

本学部に限らず、最近の学生は地元志向が強いと言われてます。少子高齢化・産業の海外移転などにより地域の空洞化・荒廃化が否応もなく進展しています。地域活性化・地域再生とか生まれ育った地域へ恩返し・貢献をしたいので地元へ帰りたいという熱い想いを持つことには敬意を表したい（今時の言葉で言えばリス・ペクトしたい）と思います。

地元の地銀・信金や市役所志望の学生たちと話をしている志望理由を聞きますと、前述の熱いミッションではなくて、「安定していますから」という答えがまた返ってきます。

す。地銀・信金といえども得意先は否応もなく海外へ出て行かざるを得ませんから、それに対応するため海外銀行と提携するとか海外拠点を設けるとかあるいは国内でも近隣の他行と経営統合するとかが必然となりつつあるということ、また、国・地域を問わず財源不足の折、公務員も別に安定した地位にあるとは言えないという話をせざるを得ません。

こういうことは就職活動期間だけでも新聞・雑誌・テレビあるいはネットでもいいですからニュースに触れてもらうと日常的に理解できることなのにと残念でなりません。

セブン&アイホールディングスの鈴木敏文会長はかねてより「小売業は変化対応業」だとよくおっしゃってこられました。しかし小売業に限らず、どの業種・業界であろうと最大の経営課題は『どう変化に対応するか』にあると思います。スピーディな変化対応力が企業・役所の存亡に大きく関わってきます。昨日まであれだけ隆盛を極めた半導体業界、家電業界の今日の苦境のどん底にある姿に如実に現れていると思えます。安定はいつときの夢・まぼろしです。安定ということは変化に対応して切り抜けてゆく中につかの間あるものだと考えます。変化の中にある安定があり、安定の中に変化がある。俳聖松尾芭蕉の到達した「不易流行」の境地そのものだと思います。

学生たちには大学生活の中で、「変化」に対応する「覚悟」を持ち、「変化」に対応できる「才覚」を磨いてもらいたいものです。

「才覚」というと「要領」でしようと言われたことがあります。似て非なるものです。「才覚」とは蓄積した知識・教養に裏打ちされた『生きる知恵』です。

そういう意味でも大学の勉強はちゃんと身に付けて欲しいものです。リベラルアーツの涵養が肝要（!?）でしょう。

学生たちの人生を生きるの誰か？

話は変わりますが、昨年の卒業生の親御さんから相談を受けたことがあります。ご子息は国内最大手の小売企業に内定（当時は内々定）をもらっています。転勤があることを嫌がっているとのことでした。また、親御さんとしては折角本学部を卒業させるのにスーパーの店頭で販売をしたり、店のバックヤードで商品の仕分け作業をすることなどは納得できないとのことでした。そこで、小職は次のようなお話をさせていただきました。国内最大手の小売企業からご子息の能力に対して評価いただいたことは素晴らしいことです。どんな仕事に就こうとも、先ずは現場を踏みます。現場を踏んで経験を積んだ上で、管理職の階段を上っていくことが本学部卒業生には求められているわけです。逆に言えばいつまでも現場に居座り続けられ

るということは想定されていないのです。しかも、従来小売業とか教育産業は国内だけで完結する業種と考えられてきましたが、少子化に伴う市場縮小を受けて、海外に市場を求めることが必然となっています。内需といえば従来は国内市場だけのことでしたが、今やアジア内需といわれる所以です。ご子息が内定を得た国内最大手の小売企業などはその先鞭をつけてアジアに店舗網・諸事業を展開しています。場合によってはご子息にも海外で活躍することが期待されているのです。このケースは結局親御さんの意向だったのか学生の意向だったのかは判りませんが、その小売企業の内定を辞退し、地場専門の卸売業に進路をとりました。

保護者のみなさま方が体験・経験されてきた経験値・価値観はそれはそれとして貴重なものではないでしょうか。時代は大きく変化しております。学生たちの進路について、いろいろと話し合われることはもとより大歓迎です。ただ一方的な価値観に基づく判断・評価基準によることになることと現実との間に大きな温度差があるなど感じざるを得ないケースをよく見聞きするの事実です。学生たちの一度きりの人生を生きるの学生たち本人であり、決して保護者のみなさま方の人生を生きるわけでもなく、ましてや友達や同僚の人生を生きるわけでもないということを考えていた

なければ幸いかなと思います。

近江商人・彦根高商のDNA

先般、朝一番に本科18回卒業とおっしゃる大先輩からお電話を頂戴しました。本科18回という昭和17年9月の卒業ですから90歳を超えられています。小職の異論とか説明を聞く暇もなく一方的に約20分ほどお話になられて電話は切れてしまいました。お話のポイントの一つは最近の後輩の進路先としていわゆる5大総合商社への就職がないということでした。3年前から伊藤忠、丸紅、双日などへ行く学生が出てきました。2000年頃から10年ほどは総合商社への就職者が途絶えた時期がありました。確かに本学部の前身の彦根高商以来商社への進路というのとは一つの大きな流れを形成していたと思います。

ただ、商社ということ海外でも



企業合同説明会

活躍するということに置き換えてみますと、現代は商社に関わらずあらゆる業種・業界そして規模の大小に関わらず、グローバル展開をせざるを得ない状況に否応もなく置かれていと言えます。トヨタを頂点とする自動車及び関連業界などはその先駆的な典型例でしょう。

この彦根の本来地場の企業でも彦根の本社は小規模ながら中国には大規模な工場を展開しているという時代です。

先述のように地域活性化・地域再生というミッションを持って、地域に貢献したいという意味での地元志向にはリスペクトしたいと思えます。

しかし、本学部前身の彦根高商建学の折に多大な寄付・支援を頂いた高宮（現彦根市）の前川善三郎家、あるいは今日の伊藤忠商事・丸紅に繋がる伊藤長兵衛家・伊藤忠兵衛家のような近江商人は江戸時代は天秤棒一本で日本全国を股に掛け、商いを拡大してきました。また、明治維新以降は東アジアの各地あるいは米・加という北米にも雄飛してゆきました。

近江商人の流れを汲む本学部の学生諸君にはこのDNAが流れているということを感じていただいて、海外であれ国内であれグローバルな視野に立って就職あるいは進路ということを考えていただきたいと思います。

就職状況

平成24年度就職状況

経済学部特任准教授 小野晶生

一、平成24年度就職状況の総括

一昨年度の卒業生は就職活動の真つ只中に東日本大震災という未曾有の災厄に見舞われ、今までに経験したことのないような混乱した、超長期化した就職活動でした。

昨年度（平成25年3月）の卒業生も経団連の倫理憲章見直しに伴う企業の採用広報開始後倒しという事態に見舞われました。一昨年度までは3回生の10月スタートでしたが、昨年度からは12月スタートと2ヶ月の後ろ倒しとなりました。学生たちにとつては当然始めての事態であり、企業サイドも手探りで採用活動となりました。

企業にとつては厳選採用に必要な一定の母数を確保するための母集団形成が困難となり、採用を目標とする大学への積極的なアプローチを試みました。本学部でも学内での個別企業説明会（企業によってはプラス選考会）が延べ30社を数えました。一昨年度は3社でした。滋賀大学経済学部ブランドはまだまだ健在だと実感した次第です。

学生たちも短期決戦ということ、緊張感を持って積極的に活動したことで、結果的に後述の諸資料のような成果を挙げることに繋がったと思います。本学部が提供する諸々の就職支援プログラムへの参加も積極的でした。

二、平成24年度の本学部の特徴

①就職決定率は昨年度比2.4ポイント改善

平成24年度就職決定率は93.3%となっており、昨年の90.9%から2.4ポイント改善しました。また、公務員希望を除いた企業就職決定率は、94.1%となっています。

②例年どおりの就職先と大手企業志向

「金融業」「製造業」「卸売業」「情報通信業」へ多くの学生が就職するという傾向は今年も大きく変わりませんでした。産業別就職割合を例年と比較した場合、すべての業界においてその割合はほとんど変化がありませんでした。また、企業規模別の就職割合を見た場合、大手企業の就職割合が上昇しており、大手企業志向が強くなったといえます。

三、本年（平成25年）度就職状況の展望

①採用選考は「短期集中型」
昨年12月1日の採用広報開始、本年4月の採用選考開始で6月には選考が終了するという超短期集中型になるということです。

②「厳選採用」・「質重視」

今期も企業雇用の増加・回復が見込まれています。しかし、企業はここ数年顕著になつてきた「厳選採用」及び学生に「質」を求める姿勢の「質重視」とは、社会人基礎力の「主体性」「実行力」といった、前に踏み出す力とコミュニケーション能力が重視されます。即ち「積極性」と「協調性」が重視されるのです。別の言い方をすれば、「自律」できる人間、指示待ちではなく、自ら考え、自ら行動できる人間が求められています。

③「採用重点層へのアプローチ」に対応

本学部を「採用重点層」と評価していただけの企業からのアプローチが多くなると予想されます。本年2月開催の「学内合同企業説明会」もその傾向でした。そして、学内での企業説明会開催希望企業には、できるだけ門戸開放をしていきます。

四、経済学部の就職活動支援

①本学部の就職活動支援の特徴

は、先輩による就職支援が挙げられます。『陵水懇話会』…3回生を対象に秋に、先輩方より業界・企業の説明や就職活動のアドバイスを受けます。『学内合同企業説明会』…2月に卒業生が多く就職している企業・団体を中心に幅広い業界から約155の企業・団体に参加していただきます。

『陵水会計人会懇談会』…卒業生で現役の税理士・公認会計士を迎えての懇談会などが他の大学にはない特徴です。

『就職ガイダンス』…6月から就職活動の進め方や採用選考準備などにつき13回開催されます。

業界・企業研究を目的に採用担当者を迎えての説明会や『公務員採用試験説明会』なども開催しています。

なお、就職情報会社が開催する大阪・名古屋での『合同企業説明会』にも、学生の就職活動経費負担軽減のために、大学予算に加えて、経済学部後援会予算も頂戴して、彦根キャンパスからの学生送迎バスツアーを昨年は4回実施しました。

②校舎棟1階には、彦根キャンパスでの就職活動支援の拠点として『就職支援室』を設け、本学部に届いた求人票や学内外での会社説明会などの就職活動に関する情報提供のほか、小職による「就職相談」を年間を通じて実施しています。

会社名	計	男子	女子
106 (株)アイネス	1	1	1
107 アルファテックノロジー(株)	1	1	1
108 (株)インテック	1	1	1
109 NECシステムテクノロジー(株)	1	1	1
110 (株)NTTデータ	1	1	1
111 (株)エヌワーク	1	1	1
112 王子ビジネスセンター(株)	1	1	1
113 (株)大塚商会	1	1	1
114 (株)オービック	1	1	1
115 関電システムソリューションズ(株)	1	1	1
116 京セラコミュニケーションシステム(株)	1	1	1
117 京セラドキュメントソリューションズ(株)	1	1	1
118 共立コンピュータサービス(株)	2	2	2
119 KLab(株)	1	1	1
120 (株)山陰中央新報	1	1	1
121 JFEシステムズ(株)	1	1	1
122 (株)滋賀県農協電算センター	1	1	1
123 (株)システムシンク	1	1	1
124 (株)システム ディ	1	1	1
125 (株)システムリサーチ	1	1	1
126 島津システムソリューションズ(株)	1	1	1
127 シンボー情報システム(株)	1	1	1
128 スミセイ情報システム(株)	2	1	1
129 中央コンピューター(株)	1	1	1
130 (株)TIS	1	1	1
131 (株)トヨタコミュニケーションシステム	1	1	1
132 西日本電信電話(株)	1	1	1
133 日本ハムビジネスエキスパート(株)	1	1	1
134 (株)NEXT INVESTMENT	1	1	1
135 パナソニック電気インフォメーションシステムズ(株)	1	1	1
136 (株)不二越情報システム	1	1	1
137 (株)富士通マーケティング	1	1	1
138 (株)メイケイ	1	1	1
139 (株)ラプラス・システム	1	1	1
運輸業、郵便業			
140 味の素物流(株)	1	1	1
141 新木産業(株)	1	1	1
142 花王ロジスティクス(株)	1	1	1
143 (株)上組	1	1	1
144 (株)関西エアポートエージェンシー	1	1	1
145 九州旅客鉄道(株)	1	1	1
146 (株)住友倉庫	1	1	1
147 センコー(株)	1	1	1
148 中国ターミナルサービス(株)	1	1	1
149 (株)手原産業倉庫	1	1	1
150 名古屋鉄道(株)	1	1	1
151 三重交通(株)	2	2	2
卸売業			
152 石黒メディカルシステム(株)	1	1	1
153 (株)一光	1	1	1
154 伊藤忠商事(株)	1	1	1
155 エスフーズ(株)	1	1	1
156 (株)大岳商事	1	1	1
157 小浜海産物(株)	1	1	1
158 (株)折兼	1	1	1
159 (株)京セラソーラーコーポレーション	1	1	1
160 清原(株)	2	2	2
161 光昭(株)	1	1	1
162 佐藤商事(株)	1	1	1
163 佐政水産(株)	1	1	1
164 シークス(株)	1	1	1
165 白石カルシウム(株)	1	1	1
166 杉本商事(株)	1	1	1
167 鈴与商事(株)	1	1	1
168 住電商事(株)	1	1	1
169 瀧定名古屋(株)	1	1	1
170 谷村実業(株)	1	1	1
171 (株)千代田組	1	1	1
172 (株)電響社	1	1	1
173 (株)東陽	1	1	1
174 (株)トーカン	1	1	1
175 (株)徳岡	1	1	1
176 トップ産業(株)	1	1	1
177 轟産業(株)	1	1	1
178 トラスコ中山(株)	1	1	1
179 (株)日本アクセス	1	1	1
180 (株)バラカ	1	1	1
181 光伝導機(株)	1	1	1
182 福栄鋼材(株)	1	1	1
183 富士貿易(株)	2	1	1

会社名	計	男子	女子
製造業(鉄鋼業、非鉄金属・金属製品)			
34 岡部(株)	1	1	1
35 兼房(株)	1	1	1
36 京都機械工具(株)	1	1	1
37 (株)栗本鐵工所	1	1	1
38 サンコー(株)	1	1	1
39 信英蓄電器箱(株)	1	1	1
40 住友電工工業(株)	1	1	1
41 (株)日東精工	1	1	1
42 三菱製鋼(株)	1	1	1
製造業(はん用・生産用・業務用機械器具)			
43 (株)アクトリー	1	1	1
44 (株)イシダ	2	2	2
45 NKE(株)	1	1	1
46 オークマ(株)	1	1	1
47 大阪機工(株)	1	1	1
48 岡設計(株)	1	1	1
49 (株)クボタ	2	2	2
50 グローリー(株)	1	1	1
51 (株)KCM	1	1	1
52 コマツNTC(株)	1	1	1
53 (株)神鋼環境ソリューション	1	1	1
54 大洋技研工業(株)	1	1	1
55 大和冷機工業(株)	1	1	1
56 (株)デイスコ	1	1	1
57 (株)豊通マシナリー	1	1	1
58 日精(株)	1	1	1
59 (株)日立建機ディエラ	1	1	1
60 富士工機(株)	1	1	1
61 (株)不二越	1	1	1
62 フジテック(株)	1	1	1
63 (株)マキタ	1	1	1
64 (株)メニコン	1	1	1
65 (株)ユーシン精機	1	1	1
製造業(電子部品・デバイス・電子回路)			
66 アスモ(株)	1	1	1
67 (株)松尾製作所	1	1	1
製造業(電気・情報通信機械器具)			
68 エレコム(株)	1	1	1
69 オプティクス(株)	1	1	1
70 (株)キーエンス	2	2	2
71 キヤノン(株)	1	1	1
72 (株)タムラ製作所	1	1	1
73 (株)ニチビ	1	1	1
74 日本圧着端子製造(株)	1	1	1
75 福島工業(株)	1	1	1
76 三菱電機(株)	1	1	1
製造業(輸送用機械器具)			
77 愛三工業(株)	1	1	1
78 アイシン・エイ・ダブリュ工業(株)	1	1	1
79 大塚産業クリエイツ(株)	1	1	1
80 シロキ工業(株)	1	1	1
81 スズキ(株)	1	1	1
82 太平洋工業(株)	1	1	1
83 津田工業(株)	1	1	1
84 (株)デンソー	2	1	1
85 BOSCH(株)	1	1	1
86 宮崎精鋼(株)	1	1	1
製造業(その他の製造)			
87 (株)岡村製作所	1	1	1
88 (株)カズマ	1	1	1
89 (株)カナエ	1	1	1
90 (株)コクヨ工業滋賀	3	1	2
91 小松ウオール工業(株)	1	1	1
92 (株)サクラクレパス	1	1	1
93 タイガー魔法瓶(株)	1	1	1
94 高砂工業(株)	1	1	1
95 タカラスタンダード(株)	2	2	2
96 東海紙器(株)	1	1	1
97 TOTO(株)	1	1	1
98 日本特殊陶業(株)	1	1	1
99 (株)ノリタケカンパニーリミテッド	1	1	1
100 山梨工業(株)	1	1	1
電気・ガス・熱供給・水道業			
101 関西電力(株)	3	2	1
102 中部電力(株)	1	1	1
情報通信業			
103 (株)アイ・アイ・エム	1	1	1
104 (株)アイエスエフネット	1	1	1
105 (株)アイディフォー	1	1	1

平成24年度就職状況

平成25年5月1日現在

進路別内訳	計	男子	女子
卒業者	609	390	219
進学者			
大学院	11	9	2
大学学部	1	1	0
専修学校等	10	5	5
就職者			
教員	1	1	0
企業就職	478	302	176
公務員	46	32	14
その他	62	40	22

進学先・就職先一覧

○進学先内訳

進学先	計	男子	女子
大学院進学			
1 滋賀大学大学院	4	2	2
2 大阪大学大学院	3	3	0
3 岡山大学大学院	1	1	0
4 神戸大学大学院	1	1	0
5 奈良先端科学技術大学院大学	1	1	0
6 三重大学大学院	1	1	0
学部編入学			
1 佛教大学通信教育課程	1	1	0
専修学校入学			
1 大阪ゲームデザイナー学院	1	1	0
2 大阪保健福祉専門学校	1	1	0
3 大原学園	2	1	1
4 関西労災看護専門学校	1	1	0
5 TAC	3	2	1
6 ディーズファッション専門学校	1	1	0
7 LEC	1	1	0

○就職先内訳(産業別・業種別)

会社名	計	男子	女子
建設業			
1 サンヨーホームズ(株)	2	2	0
2 セキスイハイム中四国(株)	1	1	0
3 セキスイハイム中部(株)	1	1	0
4 セキスイハイム東海(株)	1	1	0
5 積水ハウス(株)	3	3	0
6 大和ハウス工業(株)	2	2	0
7 (株)竹中工務店	1	1	0
8 チトセホーム(株)	1	1	0
9 日本eリモデ(株)	1	1	0
10 (株)長谷工コーポレーション	1	1	0
11 (株)丸屋建設	1	1	0
12 三菱電機ビルテクノサービス(株)	3	3	0
13 三菱電機プラントエンジニアリング(株)	1	1	0
製造業(食料品・飲料・たばこ・飼料)			
14 石田食品(株)	1	1	0
15 大橋珍味堂(株)	2	2	0
16 (株)叶匠壽庵	1	1	0
17 日清オイログループ(株)	1	1	0
18 日本食研ホールディングス(株)	1	1	0
19 白鶴酒造(株)	1	1	0
20 (株)ベストオーネ	1	1	0
21 味覚糖(株)	1	1	0
製造業(繊維工業)			
22 綾羽(株)	1	1	0
23 岡本(株)	1	1	0
24 サンラリーグループ	1	1	0
25 東洋紡(株)	1	1	0
26 丸真(株)	1	1	0
製造業(印刷・同関連業)			
27 (株)石田大成社	1	1	0
28 凸版印刷(株)	1	1	0
29 山野印刷(株)	1	1	0
製造業(化学工業・石油製品・医薬品等)			
30 塩野義製薬(株)	1	1	0
31 (株)資生堂	1	1	0
32 新光化成(株)	1	1	0
33 フクビ化学工業(株)	1	1	0

会 社 名	計	男	女
331 (国)愛媛大学	1	1	
332 (学)岐阜聖徳学園大学	1	1	
333 (国)岐阜大学	1	1	
334 (国)滋賀大学	1	1	1
335 (国)名古屋工業大学	1	1	1
336 (学)古川学園 向陽台高等学校	1	1	
その他教育			
337 ㈱アンドリュウ	1	1	
338 ㈱ウイザス	1	1	1
339 ㈱成基	1	1	1
医療・保健			
340 大津赤十字病院	1	1	
341 岐阜県厚生農業協同組合連合会	1	1	
342 (医)弘英会 琵琶湖大橋病院	1	1	
343 (医)蘇生会 蘇生会総合病院	1	1	1
社会保険・福祉			
344 (社)いずみ野福祉会	1	1	1
345 (社)恵泉会 菊水園	1	1	1
346 (社)湖北会	1	1	1
347 全国健康保険協会	1	1	1
348 (社)東近江市社会福祉協議会	1	1	1
複合サービス事業			
349 ぎふ農業協同組合	1	1	1
350 なごや農業協同組合	1	1	1
351 なのはな農業協同組合	1	1	1
352 日本郵便㈱	2	1	1
353 兵庫六甲農業協同組合	1	1	1
354 めぐみの農業協同組合	1	1	1
355 粟東市農業協同組合	1	1	1
356 レーク伊吹農業協同組合	1	1	1
357 若狭農業協同組合	1	1	1
その他サービス			
358 NPO法人 京都留学生支援機構	1	1	1
359 ㈱採用総研	1	1	1
360 滋賀県商工会連合会	3	1	2
361 新日本開発㈱	1	1	1
362 ㈱総合キャリアオプション	1	1	1
363 ㈱トーカイ	1	1	1
364 日本環境マネジメント㈱	1	1	1
365 ㈱夢真ホールディングス	1	1	1
366 YKKビジネスサポート㈱	1	1	1
国家公務			
367 大阪高等裁判所	2	1	1
368 会計検査院	1	1	1
369 海上自衛隊	1	1	1
370 神戸税関	1	1	1
371 東海財務局	1	1	1
372 東京国税局	1	1	1
373 名古屋入国管理局	1	1	1
374 陸上自衛隊	3	2	1
地方公務			
375 愛荘町役場	1	1	1
376 愛知県市町村立小中学校職員	1	1	1
377 あま市役所	1	1	1
378 一宮市役所	1	1	1
379 大阪府教育委員会	1	1	1
380 大阪府庁	1	1	1
381 大津市役所	1	1	1
382 大府市役所	1	1	1
383 岡崎市役所	1	1	1
384 亀岡市役所	1	1	1
385 岐阜県警察	1	1	1
386 岐阜県庁	2	1	1
387 岐阜市役所	1	1	1
388 京都府庁	1	1	1
389 警視庁	1	1	1
390 湖南広域行政組合	1	1	1
391 滋賀県警察	2	2	2
392 滋賀県庁	4	2	2
393 敦賀市役所	1	1	1
394 豊郷町役場	1	1	1
395 豊田市役所	1	1	1
396 長岡京市役所	1	1	1
397 名古屋市役所	3	3	3
398 彦根市役所	1	1	1
399 舞鶴市役所	1	1	1
400 米原市役所	1	1	1
401 松本市役所	1	1	1
402 みなべ町役場	1	1	1

会 社 名	計	男	女
261 近畿産業信用組合	2	2	2
262 湖東信用金庫	1	1	1
263 滋賀県信用農業協同組合連合会	1	1	1
264 ㈱商工組合中央金庫	3	3	3
265 武生信用金庫	1	1	1
266 但陽信用金庫	2	1	1
267 東海労働金庫	1	1	1
268 豊田信用金庫	1	1	1
269 豊橋信用金庫	1	1	1
270 長浜信用金庫	1	1	1
271 中兵庫信用金庫	1	1	1
272 碧海信用金庫	1	1	1
273 北陸労働金庫	1	1	1
金融業(証券)			
274 SMBC日興証券㈱	3	3	3
275 SMBCフレンド証券㈱	1	1	1
276 静銀ティエム証券㈱	1	1	1
277 大和証券㈱	3	1	2
278 東海東京証券㈱	3	3	3
279 野村證券㈱	5	5	5
280 丸三証券㈱	2	1	1
金融業(その他)			
281 大阪ガスファイナンス㈱	1	1	1
282 ㈱オリエントコーポレーション	1	1	1
283 滋賀県信用保証協会	1	1	1
284 静岡県信用保証協会	1	1	1
285 第一商品㈱	1	1	1
286 西日本建設業保証㈱	1	1	1
287 ニッセイアセットマネジメント㈱	1	1	1
288 ㈱日本政策金融公庫国民生活事業	1	1	1
保険業			
289 ㈱かんぽ生命保険	2	1	1
290 銀泉㈱	2	1	1
291 住友生命保険(相)	1	1	1
292 ㈱損害保険ジャパン	1	1	1
293 第一生命保険㈱	1	1	1
294 大同生命保険㈱	1	1	1
295 東京海上日動火災保険㈱	1	1	1
296 日本生命保険(相)	3	1	2
297 ㈱エドワード・フィナンシャル・コンサルティング	1	1	1
298 富士火災海上保険㈱	1	1	1
299 三井住友海上火災保険㈱	1	1	1
300 明治安田生命保険(相)	3	3	3
不動産取引・賃貸・管理業			
301 ㈱ジェイ・エス・ビー	1	1	1
302 (独)都市再生機構	1	1	1
303 日本駐車場開発㈱	2	1	1
304 橋本不動産㈱	1	1	1
305 ㈱福屋工務店	1	1	1
物品賃貸業			
306 朝日機材㈱	1	1	1
307 キリックスグループ	1	1	1
308 トヨタレンタリース奈良	1	1	1
309 芙蓉総合リース㈱	1	1	1
法務			
310 あしだ総合法律事務所	1	1	1
その他専門・技術サービス業			
311 ㈱アドプランナー	4	2	2
312 アビームコンサルティング㈱	1	1	1
313 ㈱コンベンションリンゲージ	1	1	1
314 新納会計事務所	1	1	1
315 永田会計事務所	1	1	1
316 中野公認会計士事務所	1	1	1
317 ㈱博報堂プロダクツ	1	1	1
318 みずびと税理士法人	1	1	1
宿泊業・飲食サービス業			
319 ショップバー郷	1	1	1
320 ㈱スーパーホテル	1	1	1
321 ㈱ホロニック	1	1	1
322 ルートイングループ	1	1	1
生活関連サービス業・娯楽業			
323 ㈱ヴァレック	1	1	1
324 ㈱エイチ・アイ・エス	1	1	1
325 ㈱セントラル	1	1	1
326 ㈱マルハン	1	1	1
327 名鉄観光サービス㈱	1	1	1
328 ㈱よしもとクリエイティブエージェンシー	1	1	1
329 リープラス㈱	1	1	1
学校教育			
330 愛知県立大学	1	1	1

会 社 名	計	男	女
184 フジモトHD㈱	1	1	1
185 ㈱フジワ	1	1	1
186 ㈱プロスチール	1	1	1
187 丸紅㈱	1	1	1
188 三井食品㈱	1	1	1
189 三菱電機トレーディング㈱	1	1	1
190 名鉄協商㈱	1	1	1
191 ㈱メタルワン特殊鋼	1	1	1
192 ㈱元林	1	1	1
193 ユアサ商事㈱	1	1	1
194 吉田泰産業㈱	1	1	1
195 ラサ商事㈱	1	1	1
196 リコージャパン㈱	1	1	1
小売業			
197 愛知県スズキ販売㈱	1	1	1
198 イオン北海道㈱	1	1	1
199 ㈱カインズ	1	1	1
200 ㈱コス兵	3	3	3
201 ㈱さくら	1	1	1
202 滋賀テレコム㈱	1	1	1
203 ㈱スギ薬局	1	1	1
204 ㈱セブンイレブン・ジャパン	2	1	1
205 セブンイレブン中国成都	1	1	1
206 ㈱高島屋	1	1	1
207 ディーゼルジャパン㈱	1	1	1
208 東海キヨスク㈱	1	1	1
209 トヨタカローラ滋賀㈱	1	1	1
210 ㈱ドン・キホーテ	1	1	1
211 ㈱西尾	1	1	1
212 ㈱ニトリ	1	1	1
213 日本マクドナルド㈱	1	1	1
214 ㈱ネクステージ	1	1	1
215 ㈱ハートフレンド	1	1	1
216 (有)花権	1	1	1
217 ㈱ファミリーマート	1	1	1
218 ㈱文苑堂書店	1	1	1
219 ㈱平和堂	5	4	1
220 マックスバリュ西日本㈱	1	1	1
221 ㈱マツモト	1	1	1
222 ㈱ユース	1	1	1
223 ㈱ユタカファーマシー	1	1	1
224 ㈱ユニクロ	1	1	1
225 ㈱ヨドバシカメラ	1	1	1
226 ㈱ライフオート	1	1	1
227 リビンス㈱	1	1	1
228 ㈱リンク・セオリー・ジャパン	1	1	1
金融業(銀行)			
229 ㈱愛媛銀行	1	1	1
230 ㈱大垣共立銀行	6	3	3
231 ㈱関西アーバン銀行	4	2	2
232 ㈱紀陽銀行	1	1	1
233 ㈱京都銀行	6	3	3
234 ㈱山陰合同銀行	1	1	1
235 ㈱滋賀銀行	16	6	10
236 ㈱静岡銀行	2	2	2
237 ㈱十六銀行	5	5	5
238 ㈱新生銀行	1	1	1
239 ㈱第三銀行	1	1	1
240 ㈱但馬銀行	1	1	1
241 ㈱栃木銀行	1	1	1
242 ㈱名古屋銀行	2	2	2
243 ㈱南都銀行	1	1	1
244 ㈱百五銀行	1	1	1
245 ㈱北陸銀行	1	1	1
246 ㈱北國銀行	3	2	1
247 みずほフィナンシャルグループ	2	2	2
248 ㈱三井住友銀行	6	3	3
249 三井住友トラストグループ	2	2	2
250 ㈱三菱東京UFJ銀行	5	2	3
251 三菱東京UFJ銀行(中国)有限公司	1	1	1
252 ㈱ゆうちょ銀行	1	1	1
253 りそなグループ	1	1	1
金融業(協同組織)			
254 愛知県信用農業協同組合連合会	1	1	1
255 大垣信用金庫	2	2	2
256 大阪信用金庫	3	1	2
257 岡崎信用金庫	1	1	1
258 岐阜信用金庫	4	4	4
259 京都信用金庫	2	2	2
260 京都中央信用金庫	4	2	2

後援会総会

4月4日(木)入学式後に開催されました経済学部後援会総会には、多数の皆様のご出席をいただきありがとうございました。

総会では、戸田後援会会長、梅澤経済学部長の挨拶、平成24年度決算及び25年度予算案の審議、新委員の選出があり、続いて、学務関係事項及び学生関係事項の説明、就職状況について報告がありました。総会で承認されました平成24年度決算及び25年度予算について、出席いただけなかった会員の皆様に、ここに決算書と予算書を掲載させていただきます。

平成24年度 経済学部後援会収支報告

後援会総会



収入 (単位：円)

科目	決算額	備考
前年度繰越額	631,973	
会費(学部新入生)	8,670,000	578人×@15,000
会費(編入生)	165,000	22人×@7,500
会費(大学院新入生)	127,500	17人×@7,500
利息	1,062	
収入合計	9,595,535	

支出 (単位：円)

科目	予算額	決算額	過不足額	備考
①厚生体育費補助	3,120,000	3,107,000	13,000	近国体運営費、大会出場者交通費、課外活動等補助
②文化活動補助	1,440,000	1,449,000	-9,000	開学祭、滋大祭、課外活動等補助
③学生研究調査費補助	70,000	76,500	-6,500	学生懸賞論文副賞、優秀卒業論文副賞
④学務関係補助	1,374,000	1,354,933	19,067	TOEIC-IP受験補助、成績送付経費等
⑤就職補助費	800,000	860,000	-60,000	合同企業説明会等参加経費、OB懇談会経費
⑥団体分担金	140,000	332,000	-192,000	会費、学会開催経費等補助
⑦研究所等補助	450,000	450,000	0	資料購入、運営費等補助
⑧入学式・卒業式等経費	300,000	243,646	56,354	入学式、総会経費、卒業式経費補助
⑨広報費	350,000	392,437	-42,437	後援会だより印刷費、送料
⑩渉外費	550,000	467,606	82,394	学部事業補助、慶弔費等
⑪総務費	28,000	40,059	-12,059	通信費等
⑫外国人留学生後援会援助費	50,000	50,000	0	留学生後援会援助金
⑬90周年記念事業援助費積立	200,000	200,000	0	
⑭予備費	723,535	0	723,535	
支出合計	9,595,535	9,023,181	572,354	

平成24年度 図書充実費収支報告

収入 (単位：円)

科目	決算額	備考
前年度繰越額	578,634	
会費(学部新入生)	578,000	578人×@1,000
会費(編入生)	11,000	22人×@500
会費(大学院新入生)	8,500	17人×@500
利息	156	
収入合計	1,176,290	

支出 (単位：円)

科目	決算額	備考
図書購入費等	594,909	
次年度繰越額	581,381	
支出合計	1,176,290	

平成24年度 体育充実費収支報告

収入 (単位：円)

科目	決算額	備考
前年度繰越額	457,584	
会費(学部新入生)	578,000	578人×@1,000
会費(編入生)	11,000	22人×@500
会費(大学院新入生)	8,500	17人×@500
利息	121	
収入合計	1,055,205	

支出 (単位：円)

科目	決算額	備考
近国体分担金	200,000	
ゴルフ実習費	159,060	
スキー教室経費	253,717	
次年度繰越額	442,428	
支出合計	1,055,205	

平成25年度 経済学部後援会予算

収入

(単位:円)

科目	予算額	備考
前年度繰越額	572,354	
会費(学部新入生)	8,625,000	575人×@15,000
会費(編入生)	165,000	22人×@7,500
会費(大学院新入生)	112,500	15人×@7,500
利息	1,000	
収入合計	9,475,854	

後援会だより編集委員会



支出

(単位:円)

科目	予算額	備考
①厚生体育費補助	3,120,000	近国体運営費、大会出場者交通費、課外活動等補助
②文化活動補助	1,440,000	開学祭、滋大祭、課外活動等補助
③学生研究調査費補助	70,000	学生懸賞論文副賞、優秀卒業論文副賞
④学務関係補助	1,374,000	学務関係諸経費補助、TOEIC-IP受験補助、成績送付経費等
⑤就職補助費	800,000	合同企業説明会等参加経費補助
⑥団体分担金	140,000	会費、学会開催経費等補助
⑦研究所等補助	450,000	資料購入、運営費等補助
⑧入学式・卒業式等経費	300,000	入学式、総会経費、卒業式経費補助
⑨広報費	400,000	後援会だより印刷費、送料
⑩渉外費	550,000	学部事業補助、慶弔費等
⑪総務費	28,000	通信費等
⑫外国人留学生後援会援助費	50,000	留学生後援会援助金
⑬90周年記念事業援助費積立	200,000	
⑭予備費	553,854	
支出合計	9,475,854	

平成25年度 図書充実費予算

収入

(単位:円)

科目	予算額	備考
前年度繰越額	581,381	
会費(学部新入生)	575,000	575人×@1,000
会費(編入生)	11,000	22人×@500
会費(大学院新入生)	7,500	15人×@500
利息	140	
収入合計	1,175,021	

支出

(単位:円)

科目	予算額	備考
図書購入費等	700,000	
予備費	475,021	
支出合計	1,175,021	

平成25年度 体育充実費予算

収入

(単位:円)

科目	予算額	備考
前年度繰越額	442,428	
会費(学部新入生)	575,000	575人×@1,000
会費(編入生)	11,000	22人×@500
会費(大学院新入生)	7,500	15人×@500
利息	110	
収入合計	1,036,038	

支出

(単位:円)

科目	予算額	備考
近国体分担金	200,000	
ゴルフ実習費	200,000	
スキー教室経費	200,000	
予備費	436,038	
支出合計	1,036,038	

平成25年度 後援会役員名簿

会長	戸田 茂	幹事	伊勢村文二	委員	中村はるひ
副会長	河合 宏治	監事	山口 真弘	委員	福岡うた子
副会長	富田 圭一	監事	山口 健作	委員	横田 修
幹事	深尾 一郎	委員	大森 敦子	委員	平野 義和
幹事	福田 直規	委員	二宮 正子	委員	伊藤 正之
幹事	田口 誠一	委員	藤井 純子	委員	伏木 和禎
幹事	辰村ひろ子	委員	北川 保	委員	福嶋 美子

編集後記

本後援会だよりは本学部の次のURLでもご覧いただけます。

<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=31>

会員の皆様の記事についての感想や要望、後援会や経済学部に対する要望、ご意見等を郵送又はFAXでお聞かせください。

〒522-8522 彦根市馬場一丁目1-1

滋賀大学経済学部

FAX: 0749-27-1132

TEL: 0749-27-1030